

## 自閉症

Autism

自閉症では、対人関係の形成の難しさや、コミュニケーションの発達の遅れ、特定のものへのこだわりの強さなどの特徴から、とくに生活面において困難が目立ちます。知的な遅れをともなうケースもありますが、記憶力にすぐれ、知的レベルの高い子もあり、障害によって現れる特徴の幅は広いといえます。

### 自閉症の行動特性

効果的な対応法

- |                  |       |            |
|------------------|-------|------------|
| ・自分を傷つける         | ..... | 32・33ページ   |
| ・特定の音をいやがる       | ..... | 40・41ページ   |
| ・方法や手順にこだわる      | ..... | 46・47ページ   |
| ・予定変更が受け入れられない   | ..... | 48・49ページ   |
| ・人に合わせて行動できない    | ..... | 74・75ページ   |
| ・運動会などの練習に参加できない | ..... | 88・89ページ   |
| ・校外活動に参加できない     | ..... | 90・91ページ   |
| ・優先順位がつけられない     | ..... | 102・103ページ |
| ・好きなことがわからない     | ..... | 106・107ページ |
| ・休み時間の過ごし方がわからない | ..... | 132・133ページ |
| ・グループで孤立する       | ..... | 142・143ページ |
| ・自分から人にかかわれない    | ..... | 146・147ページ |
| ・ルール違反に厳しすぎる     | ..... | 148・149ページ |
| ・相手のいやがることを言う    | ..... | 158・159ページ |
| ・興味のある話しかしない     | ..... | 162・163ページ |
| ・のりや粘土がつかえない     | ..... | 224・225ページ |

## 自分を傷つける

急な予定変更などで不安が強くなったときに、壁や机に頭を打ちつけたり、自分の手や腕をかんたりすることがあります。力の加減が抑制できないため、けがにつながる可能性があります。



どんな背景があるの？



自傷行為は、強い不安を感じたときに生じやすく自閉症の傾向のある子どもにもみられます。また、こだわりを否定されたり、強い感覚刺激を受けたりしたときにも、混乱して自傷行為をすることがあります。

### 考えられる背景

- 予期せぬ予定変更で、強い不安を覚える
- 苦手なことを強要され混乱する
- 感覚過敏があるのに、苦手な感覚刺激を与えられ、強い不快を覚える
- ほかに子どもが強いことばで叱責されているのを見聞きして、不安になる

など



### 周囲の子どもへの対応

自傷行為が激しい場合、周囲の子どもにも危害が及ぶこともあるため本人から遠ざけます。また、その自傷行為を見ることで、周りの子どもが不安になる点にも配慮し、「大丈夫だからね」と声をかけて安心させることも必要です。「〇〇さんは気持ちをコントロールしていくので、みんなで支えてあげようね」と周囲の理解を促す指導があることも望めます。

## 効果的な対応法

その場で

刺激せず  
静かに見守る



保護するときは  
体にさわらない  
よう注意する



自傷行為が起きたときは、けがをしないように保護します。このとき、声をかけたり、体にさわったりして刺激しないようにしましょう。

その場で

いやがるときは  
無理強いしない



子どもの特性を把握しているときは、本人がいやがる素振りをみせたら、それ以上は強要しないようにします。

その場で

過度に興奮させない



低学年の場合は、過度な興奮によって自傷行為を起こすことがあります。楽しいことに長時間のめり込まないよう、ときどき休憩させましょう。

不安の要因を  
排除する

いやなことを強要された

予定が変更された

嫌いな音が聞こえた

こだわりを否定された



子どもの特性をよく理解し、こだわりは尊重するなど、不安にさせない配慮が必要になります。自傷行為は予防することが大切です。

# 特定の音をいやがる

避難訓練の警報音や徒競走のピストルの音など、特定の音が苦手な子どもがいます。そのことが原因となり、活動の中断を余儀なくされるケースもあります。



どんな背景があるの？



自閉症などにみられる感覚過敏が背景にあると考えられます。音に慣らして克服させることはできないということを、周囲は理解する必要があります。

## 考えられる背景

- 感覚過敏があり、強い不快や不安を感じる
- 音が鳴った途端にパニックになってしまうなど

### 苦手な音の例：

- サイレンなどの警報音
- 掃除機などの機械音
- 太鼓やリコーダーなどの楽器の音
- 犬の吠え声
- 赤ちゃんの泣き声
- 花火のような爆発音 など



## 周囲の子どもへの対応

ほかの子どもは、「こんな音がまんでできないのか」と理解できないかもしれません。学級でみんなの嫌いな音について話し合う場を設け、人によって苦手な音や、がまんできる程度は違うことを理解させましょう。そのうえで、人のいやがる音をわざと立てたり、からかったりしないよう、お互いに気づかい合うことを指導します。

## 効果的な対応法

その場で

### イヤーマフや耳栓を使う



苦手な音が鳴っている間だけ、遮音性の高いイヤーマフや耳栓を使用します。周りの子どもにも事情を説明しておきましょう。

その場で

### 苦手な音を聞かせない



音量を下げたり、子どもを音源から遠ざけたりして、苦手な音をできるだけ聞かせないようにします。

### 音が鳴ることを予告する



ある程度がまんできる子には、苦手な音が鳴ることを事前に予告します。心の準備ができることで、対応できるケースもあります。

### 苦手な音を把握しておく



本人や保護者からどんな音が苦手か聞いておくことで、対応がしやすくなり、苦手な音を聞かせずにすむようになります。

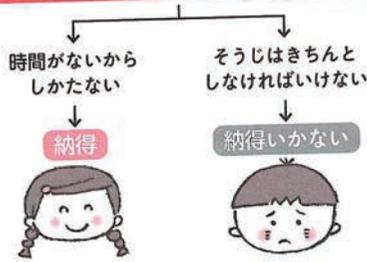
# 方法や手順にこだわる

そうじや、係の仕事の手順をいつもかえてやらなければならないときに、臨機応変に対応できない子どもがいます。変更の多い作業は混乱してしまうため、任せることが難しくなります。



自閉症にみられるこだわりの強さも背景にあると考えられます。ルーティン通りにやっていたら安心できますが、ささいな変更でも強い不安につながってしまう場合があります。

時間がないときは、そうじを簡単にさせる



## 考えられる背景

- ルーティンをかえるとどうしたらよいかわからなくなる
- 途中を飛ばしたり、途中からはじめたりすることに抵抗がある
- 最初から最後まで順番にやるのがよいと思っている

など

## 周囲の子どもへの対応

周囲の子どもは、方法や手順に強いこだわりをもつ子どもを理解しにくいでしょう。そのため、「早くしろ」などとせめたりしてしまいがちです。そのようなことを避けるためにも、「一生懸命やろうとしていることは、よいことである」と知らせ、子どもたちの理解を促しましょう。そうじ以外にも身近なことへのそれぞれのこだわりについて質問し、考えさせながら、だれにでもこだわりはあるということを納得させます。

# 効果的な対応法

その場で **パターンを提示して説明する**

<b>そうじのやり方</b> ① つくえを下げる ② はきそうじをする ③ ごみを集める ④ ごみをすてる ⑤ そうじさんがけをする ⑥ つくえを元にもどす	<b>時間がないときのそうじのやり方</b> ① はきそうじをする ② ごみを集める ③ ごみをすてる
--	--

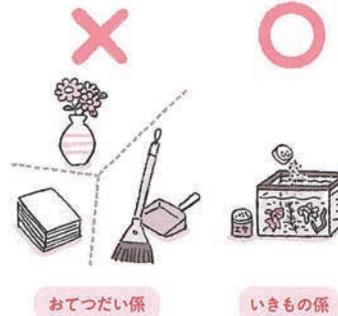
いくつかのパターンがあらかじめ決まっている場合は、それらの方法を常に貼り出しておき、その日のやり方を指示します。

その場で **許容の範囲でこだわりを尊重する**



手洗いの手順にこだわりがある場合などは、状況が許す範囲で本人の納得のいく洗い方を特別にしてもよいことにします。

## 変更の多い役割を避ける



臨機応変な対応が必要な係や、変更の多い役割はあまり担わせないようにし、かわりに本人が安心して取り組める仕事をさせましょう。

## 変更に対する抵抗を和らげる



手順をかえることがよくないことだという先入観をもっている子どもには、変更しても大丈夫であることを説明し、不安を和らげます。

# 予定変更が受け入れられない

時間割や活動場所などが急にかわったとき、それを受け入れられずに活動に参加できなくなる場合があります。無理に参加させようとするとパニックになることもあります。



どんな背景があるの？



見通しを立てるのが苦手だったり、こだわりが強い子どもに起こりやすいといえます。新しい場面などに弱く、いつも通り、予定通りでないと安心できません。強い不安は、パニックの原因にもなります。

見通しを立てるのが苦手

なにが起こるか  
わからずに不安になる

変更を受け入れられない



## 考えられる背景

- 見通しを立てたり、気持ちを切りかえたりすることが苦手
- 予定通りに物事が進まない不安になる
- 目新しい場所や事柄に強い不安がある
- 急激な変化、突然の変更に対応できないなど



アドバイス

変更事項を知らせるときは、変更前と変更後の違いが明確にわかるように伝えることが望ましいでしょう。変更事項は口頭だけでなく、文字や図で示したものを手渡したり、本人にメモをとらせたりして、視覚的にわかる形で伝えることが効果的だといえます。

## 効果的な対応法

その場で

不安があれば別の活動にかえる



変更に従うことに強い不安がみられる場合は、本人が安心できる別の活動に取り组ませ、本来の活動に参加できなくてもよいことにします。

その場で

視覚的にわかるように伝える

1	こくご
2	さんすう
3	<del>ぶんがく</del> → たいいく
4	せいかつ
5	ずごう
6	

たとえば、時間割が変更になったときは、元の時間割を見せながら、変更になる教科に赤色で×印を書いて、横に変更後の教科名を書き入れるなどして、かわったことを印象づけます。

その場で

強要はしない



本人が変更を受け入れようとしないうちに、無理に強要して従わせようとしたり、叱ったりしないようにします。

変更を早めに予告する



急な変更は不安を大きくするため、できる限り早く変更を伝え、本人が気持ちにゆとりをもって取り組めるよう配慮します。

# 人に合わせて 行動できない

周りの人の動きや状況を見て、それに合わせて、自分の行動をコントロールすることが苦手な子どももいます。周囲からは、自分勝手な子ととらえられてしまいがちです。



どんな背景があるの？

他人への関心がうすい子どもに起こりやすいといえます。相手の視点に立ったり、相手と共感したりすることが苦手なため、独断で物事を進めがちです。

## 考えられる背景

- 人と協力するより、一人でやるほうがよいという思い込みがある
- 大勢のなかに入ると、どう動いてよいかわからず不安になる

人への関心がうすい

集団に入ろうとしない

など



一人でできるほうが価値が高いと思っている



アドバイス

自閉症の傾向がある場合、そもそも他人に自分を合わせる事が苦手であり、その特性自体をかえることはできません。友だちとの協力場面を経験させることは大切ですが、協力の強要はしないようにします。本人がやりたがらないときは、その意思を尊重しましょう。気長に、少しずつスキルアップさせていくことが求められます。

## 効果的な対応法

その場で

周囲に  
注目するよう促す



周りに自ら関心を示そうとしない子どもには、みんながどうしているか見るように声をかけ、注意を促しましょう。

その場で

かけ声で相手と  
ペースを合わせる



協力して重いものを持ちあげるときや、音楽のリズムに合わせて動くときなどは、かけ声をかけるとよいことを教えます。

その場で

場面ごとに  
対応を教える

ひとつの場面でできたことが、ほかの場面に応用できないケースでは、そのつどどうやって合わせたらよいかを教えます。その後、正しいやり方を絵に描いたり、ロールプレーで練習したりして、次に同じような状況が起こったときに対応できるようにしましょう。



どうすればよかったですか？



置くよって言えばよかったです



## 運動会などの練習に参加できない

運動会や音楽会の練習の途中に、急に抜け出したり、参加するのをいやがる子どもがいます。全員参加を基本としている演目などでは、授業の進行が止まってしまう場合もあります。



どんな背景があるの？



自閉症の傾向がある子の場合、通常の授業とは異なる活動に不安や緊張を覚えやすくなります。感覚過敏があり、笛や太鼓の音を怖がり、集団のなかにいるだけで不快を感じてしまう子もいます。

### 考えられる背景

- 通常と異なる活動に強い不安を感じる
- 緊張感のある空気が耐えられない
- 人混みのおいなどが耐えられない
- 人が大勢集まる場所が苦手
- 人前に立つことが苦手

など



アドバイス

運動会や音楽会などは保護者も楽しみにしていることですが、練習の過程で本人の参加が難しそうだとわかったときは、保護者と事前に相談しておくことが大切です。本人が望まないのに強い緊張や不安を強いてまで参加させることは考えものです。裏方で行事をサポートすることも重要な役割であることを強調し、保護者の理解を求めましょう。

## 効果的な対応法

その場で

見学や休憩を許容する



不安や緊張が強いと練習がうまくできないことがあります。そのときは、見学したり、ときどき休憩したりしてもよいと伝え、本人の負担を減らします。

部分参加でもよしとする



玉入れとつなひきなら参加できるかな？

はい

独特の緊張した雰囲気などになじめない可能性もあるので、全参加が無理なら部分的な参加でよいことにします。

参加を強要しない



本人がいやがっているときは、無理に参加させないようにします。あとで、なぜ参加したくないのか理由を聞いて、配慮の方法を学年全体で相談します。

別の参加のしかたを考慮する



人前でステージに立つことなどが苦手な子どもには、裏方の仕事を担当してもらう形で“参加”できるようにしましょう。

# 校外活動に参加できない

遠足や移動教室など、遠方に出かける活動や宿泊をともなう活動への参加が困難な子どもがいます。事前の準備を入念に行い、本人が参加しやすい環境を整えましょう。



どんな背景があるの？

自閉症の傾向があったり、はじめての場面が苦手な子どもに起こりやすいといえます。見通しが立てられない不安や、感覚過敏が原因となることが少なくありません。

## 不安の原因

### 考えられる背景

- いつもと違う活動や場面に対して、不安があったり臨機応変に対応できない
- 感覚過敏があり、パニックになりやすい
- こだわりが強く、考えを曲げられないなど



校外活動の際は、保護者と前もって連絡をとり、外出先で起こりうるトラブルについて話し合っておきましょう。家族旅行のときに起きた問題などの情報を得ておけば、いざというときにあわてずに対応できます。また、はじめての場所への不安が和らぐよう、事前学習などで入念なシミュレーションをすることで参加しやすくなります。

## 効果的な対応法

### 詳細な予定を事前に知らせる

〇〇移動教室スケジュール

<1日目>	<2日目>	<3日目>
出発 9:00	起床 7:00	起床 7:00
バス乗車	朝食	朝食
到着 12:00	△△館着 10:00	出発 9:00
		森井公園 9:30

見通しが立てられないことが不安につながるため、詳細な旅程を事前に知らせておくことが有効です。現地の写真もあるとよいでしょう。

### 活動のようすを映像で見せる



過去に行ったときの映像があれば、事前に見せましょう。映像の場合、活動のようすもわかりやすいので参考になります。

### 席のこだわりなどは尊重する



バスや電車の席にこだわりがある場合、できるだけ尊重してあげるようにします。ほかの子どもにも理解と協力を求めましょう。

### 保護者と連絡がつくようにしておく



トラブルが起こり、参加続行が難しくなる可能性も考慮し、いざというときに保護者と連絡がとれる態勢を整えておきましょう。

# 優先順位がつけられない

物事の優先順位を決めるとき、優先度のつけ方が的確でないケースがしばしばあります。あした提出の宿題よりも、2週間先にあるテストの勉強が気になって優先してしまったりします。



どんな背景があるの？

自閉症やADHDの傾向があると、多動性や状況把握の難しさから、優先すべきことをあと回しにしてしまうことがあります。また、優先度が高いことがわかっているにもかかわらず、行動のコントロールがきかず、手がつけられないケースもあります。

やるべきこと・やりたいことの区別ができない

## 考えられる背景

- 的確に状況を把握できない
- 状況に応じた適切な判断ができない
- 緊急度や重要度のランクづけができない
- 自分のやりたいことを優先してしまう
- 面倒なことに取りかかれない

など



## 周囲の子どもへの対応

物事に客観的に優先順位をつけることができず、いつも自分の興味のあることから手を着けはじめてしまいがちです。自制がきかないためにそうなるのですが、周囲の子どもからは“わがままな子”という目でみられます。本人が敬遠してしまうこともサポートしながら進められるようにし、ほかの子に不公平感を抱かせないように配慮することが大切です。

## 効果的な対応法

その場で

計画通りにできたときはほめる



自分のやりたいことをあと回しにし、優先順位の高い課題をきっちりやり遂げることができたときには、おおいにほめましょう。

1日単位、週単位で計画を立てる

やることリスト		
1日	さんすう しゅくだい	○
2日	こくご おんどく 3回	○
3日	はつしやうの しらべもの	
4日	けいさんテスト のべんきよう	

1日または1週間でやるべきことについて、先生や親の助言のもとで計画を立てさせます。適切な優先順位のつけ方を、そのつど指導します。

## どちらが先か、どちらが重要かを教えて判断させる

急ぐか急がないかで判断

重要かそうでないかで判断



早くするのはどっちかな？

急ぐ課題なのか、ゆっくりやってもよい課題なのかを確認します。



本を返してから友だちとおせんぼほうがいいね

重要な用事なのか、そうではない用事なのかを一緒に確認します。

# 好きなことがわからない

自分の好きなことがなにかを把握できていない子がいます。「好きなことを自由にやってみよう」と言われると、なにをしたらよいかわからなくなってしまう。



どんな背景があるの？

発達障害がある子のなかには、自分を客観視できない子どもが少なくありません。「好き」というのがどういう感情なのか理解できず、「好きなことはなににもない」と思い込んでいるケースもあります。

人から自分がどうみられているかわからない

## 考えられる背景

- 「好き」と思えることが見つけられない
- 「好きなこと」の定義を理解していない
- 自分を客観的にみることができないなど



アドバイス

自閉症の傾向のある子の場合、周囲の人がみていて好きでやっているのだろうと思うことを、「好きではない」と否定することがあります。「好き」ということばは使わずに、「それをやっていることで不安にならずにすむ」という程度の意味にとらえさせるとよいでしょう。自由時間の過ごし方のパターンをいくつか決めておくと、困らずにすみます。

## 効果的な対応法

その場で

候補をあげて  
選ばせる



本人がやれそうなことを候補にあげて示し、そこから選ばせます。

苦にならない  
活動をさがす



好き = 苦痛を感じない  
不安にならない

「好き」とまでは言えなくても、それをしていることで本人が苦痛に感じない活動であれば、「まあまあ好きなこと」だと理解させます。

好きなことに  
気づかせる



「いつも本を読んでいるから、読書は好きなことなんじゃない?」というように話して、気づかせるようにします。

新しいことに  
チャレンジさせる



未経験のことで、やってみると興味がわくかもしれません。無理強いにしない程度に、いろいろなことに挑戦させる機会を与えます。

# 休み時間の過ごし方がわからない

休み時間をどうやって過ごしたらよいかかわからず、苦痛に感じてしまう子どもがいます。「自由にしてい」と言われることが、本人を悩ませることになります。

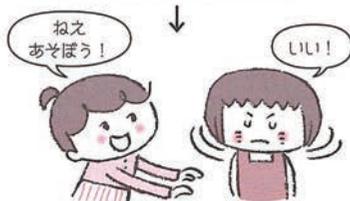


どんな背景があるの？



友だちに声をかけられない子、友だちから拒絶された経験があり、人と交われない子がいます。また、なにをしてよいかかわからず困惑してしまう子もいます。

仲間に入れてもらえなかったり意地悪をされた経験がある



など

人を避けるようになってしまう子…

## 考えられる背景

- 内気で自分から人に声をかけられない
- 「自由にしてい」と言われても、なにをすればよいかかわからない
- 「〇〇しなさい」と指示されるほうが楽に感じる
- 拒絶されるのが怖くて声をかけられないなど



アドバイス

自閉症の傾向のある子のなかには、自由度が高くなるほど、なにをすればよいかかわからず不安を感じる子どもがいます。「好きなことをしなさい」と言われても、自分が好きなものがなにに判断できない場合もあります。先生が、子どもが好きなことを一緒に考えて、候補をあげてもよいでしょう。こうした取り組みは、子どもの自己理解にもつながります。

## 効果的な対応法

その場で

### 過ごし方の候補を考える



これなら休み時間にやってもよいと本人が思えるものを聞き出し、候補をいくつかあげます。そのなかから選択させるようにします。

その場で

### 友だちに誘ってもらおう



本当は仲間に入れてほしいのに、自分から「あそぼう」と声をかけられない子どもには、友だちに誘ってくれるようお願いします。

### 拒絶しないことを約束にする



友だちから「仲間に入れて」と声をかけられたら、拒絶しないことを学級の約束にします。だれとでもあそべることを目標にするとよいでしょう。

### ときどき全員であそぶ



ときどき、先生が子どもたちに呼びかけて、学級全員であそぶのもよいでしょう。ただし、いやがる場合は無理をさせないようにします。

## グループで 孤立する

グループで活動するときに、溶け込めずに孤立してしまう子どもがいます。人と意見を交わしたり、協力したりする機会が失われ、学びを深めることができなくなります。



どんな背景があるの？



自閉症の傾向がある子の場合、人とのかかわりをもたがらないため、孤立しやすくなります。内気なために声をかけられない子や、悪ふざけが過ぎて周囲から敬遠される子もいます。

### 打ち解けられない2つのタイプ

#### 考えられる背景

- 人への関心がうすくかわろうとしない
- 苦手なメンバーだと打ち解けられない
- 自分から声をかけられない
- 依存心が強く誘いを待ってしまう
- 周囲から敬遠されている



● 自分から打ち解けようとしなかったり、できなかったりするタイプ



● ふざけすぎたり、攻撃的だったりして、周りから敬遠されてしまうタイプ

など

### 周囲の子どもへの対応

一緒に過ごす友だちを固定化させて、なじみの薄い人とはかかわりをもたがらない子どもも少なくありません。班活動でたまたま一緒になった人ともふつうに打ち解けることができるようなスキルが、子ども全般に求められています。必要に応じてだれとでも話ができて、協力し合える関係づくりを学級全体で目指すためにも、班活動を増やしていくとよいでしょう。

## 効果的な対応法

その場で

### さりげなく 仲間に入れる



集団に声をかけ、孤立している子をさりげなくグループの話の輪に参加させるよう促します。

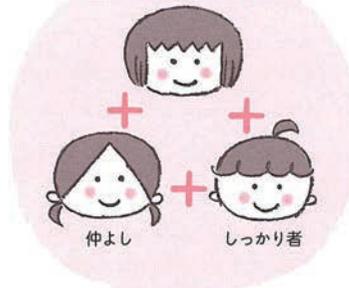
### 話し合いでは 先生が進行役を担う



話し合いのなかで、その子が発言していないと気づいたときは、「〇〇さんはどう？」と声をかけ、少しの間は先生が進行役を務めます。

### メンバーの顔ぶれに 考慮する

同じグループに



その子が親しくしている友だちや、全体への目配りができるしっかり者を、同じグループのメンバーに入れるようにしましょう。

### グループ内で 役割分担を決める

調理実習の分担



一部の子どもが主要な役割を独占してしまわないよう、最初に全員に役割が行き渡るように役割分担をしっかり決めておきます。

## 自分から人にかかわれない

自分からだれかに声をかけたり、集団に参加したりすることが苦手な子がいます。自発的に行動できないことで、活躍の機会を逸してしまうことにもなります。



どんな背景があるの？



自閉症の傾向があり人とかかわろうとしない場合や、自信がなく、何事にも自発的・意欲的に取り組めないタイプの子がいます。まず、人に認められる経験をさせ、自信をつけさせる必要があります。

自信がないと...

積極的になれなかったり  
意欲がわかず、人にかかわることを  
ためらってしまう



自信をもたせる  
ことで、積極性や  
意欲をもてるよう  
になることも

### 考えられる背景

- 自信がなく、人と対等にかかわれない
- ほかにの人に興味が無い
- 失敗に対する不安が大きい
- 依存心が強く、自分で決められない
- 過去に人から拒絶された経験があるなど



アドバイス

集団に入りたいのに入れないでいるのか、入りたいと思っていないのか、まずは子どもの状況を的確に見極めることが大切です。人への関心が低いケースでは、無理にかかわりを強いることは避けます。かかわりたいけれども踏み切れないでいる子どもには、さりげなく支援することを心がけ、少しずつ積極性を育てるよう導きます。

## 効果的な対応法

その場で

### 活躍の機会を与える



先生の手伝いをお願いしたり、用事を頼んだりして活躍の場を与え、周りの子どもから認められるような機会を増やします。

その場で

### 先生がかかわりの橋渡しをする



声のかけ方などをアドバイスしたり、先生が声かけを工夫して、かかわりがもてるよう橋渡し役を担います。

### がんばったことを自覚させる

振り返りノート



「振り返りノート」を用意し、きょうがんばったこと、人とかかわって楽しかったことなどを書かせます。先生が内容を読み、子どもに積極性や意欲がみられたときは、がんばりを認めてほめましょう。

# ルール違反に 厳しすぎる

ほかの子どもがささいなルール違反をすると、許せなくて厳しくせめ立てる子どもがいます。学年が上がるほど、融通がきかないことが人間関係を難しくする原因となることもあります。



どんな背景があるの？

自閉症の傾向のある子どもは、融通がきかない場合があり、柔軟な考え方ができません。規則やルールを自らきちんと守りますが、他の人にも厳格さを要求してしまいがちです。

### 考えられる背景

- 規則に例外があることを理解できない
- ささいなことでもルール違反は許されないと考えている
- もののたとえであっても、うそをついてはいけなと思っています

など

### 自閉症によるこだわり

ルール違反は許されない

みんなもルールを厳守するべき

↓  
ルール違反に厳しすぎて  
人と衝突してしまうことも…

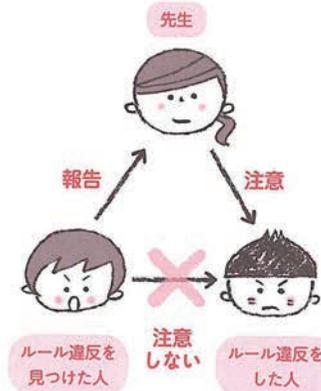
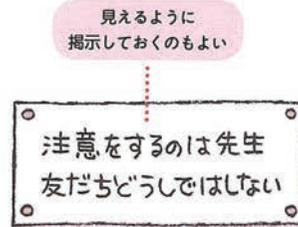
### 周囲の子どもへの対応

子どもは年齢があがるにつれ融通がきくようになっていきますが、自閉症の傾向があるとつまでも融通がきかないため、周りの子どもたちと同じ価値観でつきあうことが難しくなっていきます。人への意見のしかたや注意のルールを学級全体で決め、子どもどうしが注意し合う状況避けるようにするなど、融通がききにくい子が孤立しないような働きかけが必要です。

## 効果的な対応法

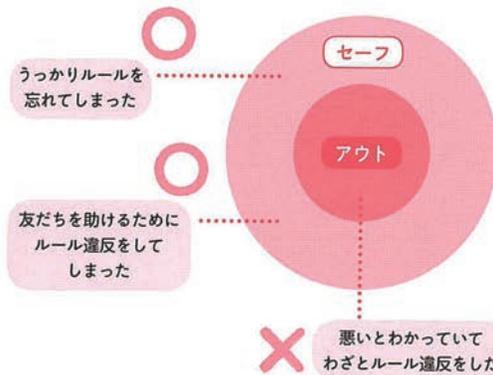
その場で

注意するのは先生のみとする



子どもどうして注意すると、気まずい雰囲気になったり、トラブルになる場合もあるため、ルール違反をした人を注意できるのは先生だけということにします。

### 違反の許容範囲を教える



たとえば、「間違えてしまった場合はセーフだけど、わざとのはアウト」というように、ルール違反が許されるケースもあることを理解させます。ロールプレーなどで実際に先生がその場面を見せるなどして、理解を促すようにするとよいでしょう。似たような状況をくり返し見たり経験するうちに、「しかたなくルール違反をしてしまうケース」という状況があることを受け入れやすくなっていきます。

## 相手のいやがることを言う

相手のいやがること、怒らせることを言ってしまう子どもがいます。怒った相手から嫌われたり、意地悪な人というレッテルを貼られてしまったりすることもあります。



どんな背景があるの？



自閉症の傾向があると、人の表情や気持ちを読むことが苦手な場合があります。そのため、悪気はないのですが、思ったままを正直に言ってしまい、相手を不快にさせてしまうことがあります。

### 考えられる背景

- 人の表情や気持ちを読むことができない
- 思ったことは正直に言ってもよいと思っっている
- 状況の理解や判断が苦手である
- 人の立場を自分に置きかえて考えるのが難しい

など



アドバイス

自閉症の人は、見たままをそのまま言ってしまふことがあり、太っている人に「太っている」と言うことが、相手を傷つけるとは想像もしません。なぜ傷つくのかということは本当の意味では理解できない可能性があります。しかし、そこは追及せず、こういうことばは使わないルールだというふうになんていってあげようか。

## 効果的な対応法

その場で

言うてはいけないことばを教える



体形や外見のことは言わないほうがよいと教えます。応用がきかない子もいるので、言うてはいけないことばを一語一語そのつど教えるようにします。

その場で

具体的な言動を教える



例：「泣いてるお友だちには、大丈夫？ って声をかけてあげようね」など

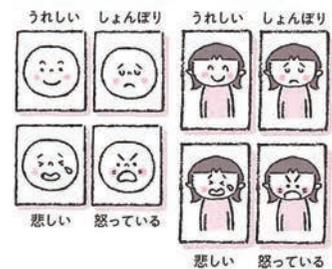
場にそぐわない言動があるときは、状況によってどのように行動するかを具体的に教えます。

## 表情と気持ちを表すことばを一緒に教える



線で簡潔に描いた顔

写真



相手の表情から、どんなふう感じているかを読みとれない子には、表情と気持ちを表すことばを一緒に教えます。表情から相手が不快なのか、うれしいかの判断できるようになると、自分の言ったことばが相手にどうとらえられたかも理解しやすくなります。

## 興味のある話しかしない

興味の対象にかたよがりがあり、人と話をするときも、その話題しかしない子どもがいます。同じ話ばかり聞かされて困惑する友だちを見ても、自分の問題に気づきません。



どんな背景があるの？



こだわりが強く、興味の対象が限定される子どもの場合、話の内容もそこにかたよがりがあります。また、自己コントロールが苦手なため、話したいことをまんして別の話題に加わることも困難です。

特定のものへのこだわりが強い

話す内容もこだわったものにしぼられ  
周りの人から敬遠されるが...



本人は気がつかない

### 考えられる背景

- 特定のものへのこだわりが強い
- 聞いている人の反応を的確にとらえられない
- 人と話を合わせるができない
- 自己コントロールがきかず、話題をかえることができない

など



アドバイス

こだわりの強い子どもに、無理強いではない形で、興味の幅を広げさせるような働きかけをすることも大切でしょう。本で読んで知ったことや、経験したこと、親しい友だちとの共通点などをきっかけに、少しでも興味がわき、知識を増やすことができれば、人と話すときの話題も広げることができるようになる場合もあります。

## 効果的な対応法

その場で

同じ話題で話せる時間を区切る



同じ話題で長時間話してしまう子には、「その話は5分以内で」などと時間を区切ったうえで、あとで続きを聞いてあげるようにします。

その場で

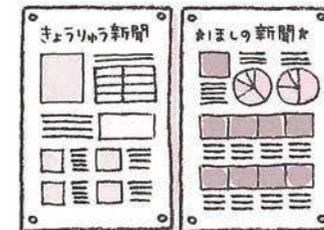
聞き手の表情に注目させる



聞いている人たちの表情に注目させるようにし、「みんな困っているよ」というふうに、状況の理解を促すようにします。

## 得意分野で活躍できるチャンスを与える

知識が豊富だったり、得意分野を生かして、その子が活躍できるようなチャンスを与えましょう。全員に自分の好きなテーマについて新聞をつくらせて掲示します。ほかの子どもから関心を集めることができるだけでなく、ほかの子の新聞を見て、自分の興味を広げるきっかけにもなります。



わたしも星好きなんだ！  
教えてもらおう！

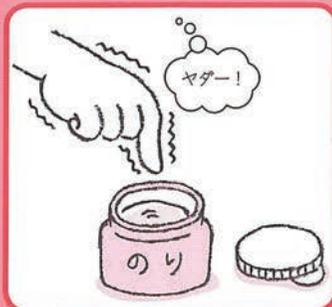


わー！  
すごいな！



# のりや粘土が 使えない

のりや粘土の独特の感触が不快で、指や手で直接さわれない子どもがいます。創作活動に支障をきたすだけでなく、不快感がつるとパニックになるおそれもあります。



どんな背景があるの？



自閉症の傾向のある子どもにみられる特有の感覚過敏が背景にあると考えられます。感覚過敏による不快さは他人には理解されにくいいため、軽視されがちですが、がまんできるものではないことを知っておく必要があります。

## 感覚過敏の例

### 考えられる背景

- のりや粘土の感触が苦手
- 粘土のにおいが苦手
- 粘土をこねる力が足りない
- のりの入った容器に指を入れられない
- のりの適量がわからずつけすぎてしまうなど



嗅覚 (におい)、触覚 (肌ざわり)、聴覚 (音) など、さまざまな感覚に過剰に反応してしまう



### アドバイス

感覚過敏は生まれつきの特性であり、慣らすことで克服できるようなものではありません。本人がいやがるときは無理強いせず、子どもが受け入れられる方法を用いるようにします。のりは浅めの皿に出し、うすく伸ばした状態であれば、指でさわられるケースもあります。いろいろな方法を試してみましょう。

## 効果的な対応法

その場で

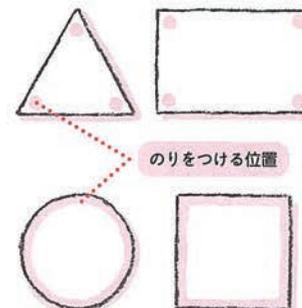
### 苦手な部分をサポートする



粘土を少しならさわられるという子の場合は、部分的に先生が手伝い、形をつくる場所は自分でやらせるといった対応をします。

その場で

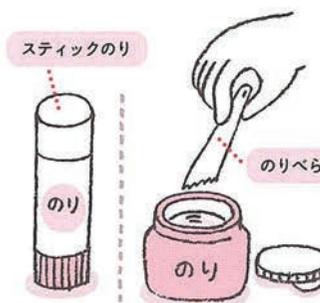
### のりをつける位置に印をつける



のりをつけすぎてしまうケースがあります。のりをつけるポイントに印をつけて防止します。

その場で

### さわらずに使える方法にする



のりの場合は、へらを使ったり、スティックのりで代用したりすれば、直接指でさわらずに済みます。

### においや感触の合うものを



粘土には独特のにおいや感触があり、さわれない子もいます。最近はおいの少ないものもあるため、本人に合うものを使わせませす。マスクをさせるのもよいでしょう。